



望月
佛教大辭典

第一卷



月望 佛教大辭典

第一



新圖書館藏

月望
佛教大辭典

第三卷



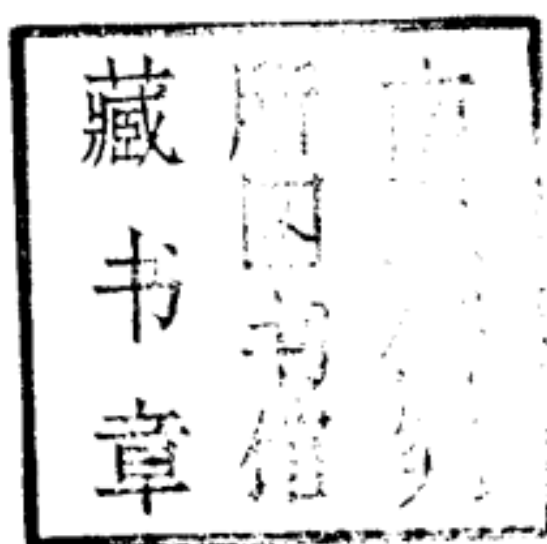
月望 佛教大辭典



第四卷

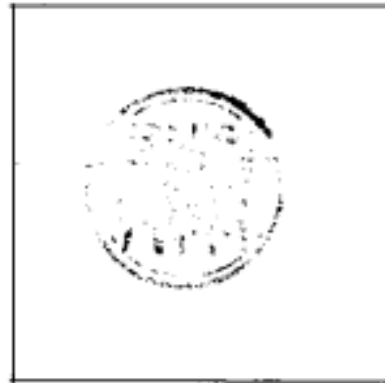
望月
佛教大辭典

第五卷



新學

昭和八年十二月五日 初版發行
昭和二十九年十一月三十日 增訂版發行
昭和四十九年五月一日 改定第一刷發行



望月仙教大辞典 第一卷

編纂代表者 塚本善隆

著作権所有者 沢本貫

発行者 沢本富子

印刷者 伊東祐一

昭栄写真印刷株式会社

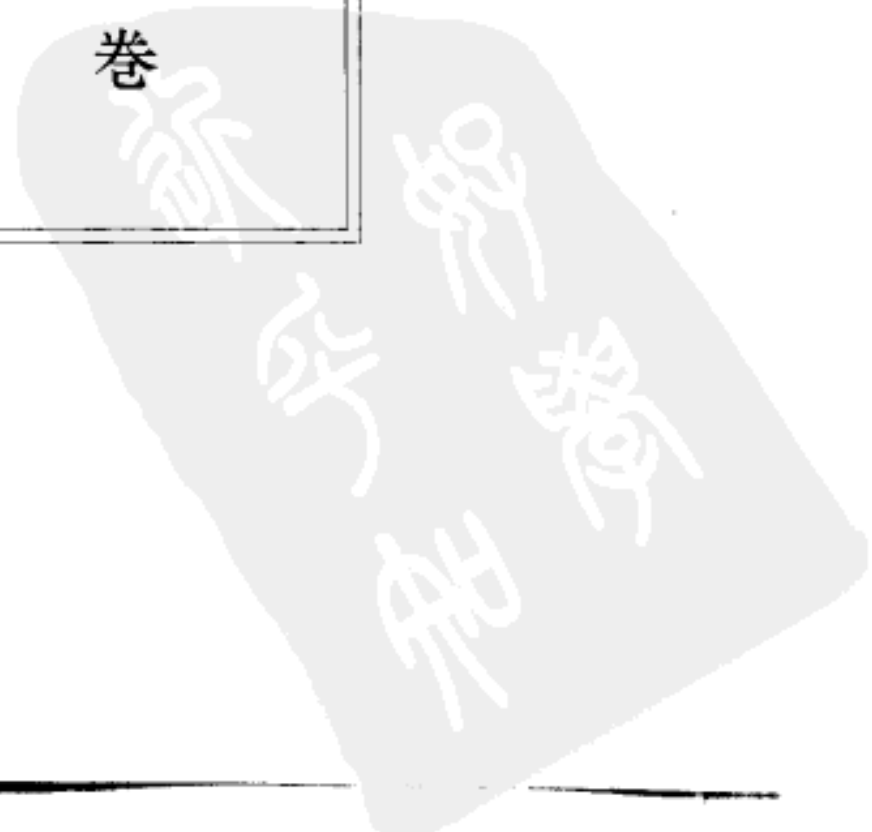
発行所 株式会社 世界聖典刊行協会

東京本部

東京都豊島区上池袋一丁目三九番十七号
電話東京(九一五)一〇七八番

支部

〒170 振替口座東京四六〇〇六番
〒602 京都市上京区油小路一条下ル
電話京都(四三二)〇九一六番
振替口座京都五〇六六番



昭和十一年十一月五日 初版発行
昭和三十三年三月二十五日 増訂版発行
昭和五十八年五月十五日 十版発行

望月仙教大辞典 第二卷

定価 九千八百円



発行所 株式会社 世界聖典刊行協会

本部 〒170 東京都豊島区上池袋一丁目三十九番十七号
電話東京(九一五)一〇七八番
振替口座東京二一四六〇〇六番

編纂代表者	塚本善隆
著作権所有者	沢本貫
発行者	沢本武
印刷者	伊藤育廣

有限会社八和印刷

昭和十一年十一月五日 初版発行
昭和三十三年二月二十五日 増訂版発行
昭和五十八年七月二十日 十一版発行

望月仙教大辞典 第三卷

定価 九千八百円



発行所 株式会社 世界聖典刊行協会

編纂代表者 塚本善隆

著作権所有者 沢本貫

発行者 沢本武

印刷者 伊藤育廣

有限会社八和印刷

本部 〒170 東京都豊島区上池袋二丁目三九番十七号
電話 東京(九一五)一〇七八番
振替口座 東京二一四六〇〇六番

昭和十一年十一月五日 初版発行
昭和三十三年三月二十五日 増訂版発行
昭和五十九年二月十五日 十一版発行

望月仏教大辞典 第四卷

定価 九千八百円

編纂代表者 塚本善隆

著作権所有者 沢本貫

発行者 沢本武

印刷者 伊藤育廣

有限会社八和印刷

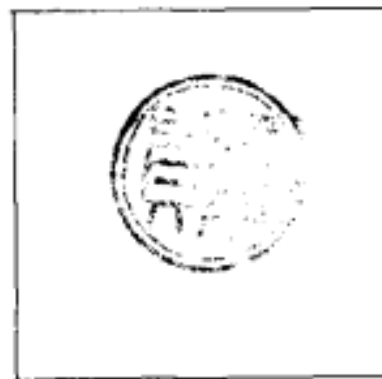


発行所 株式会社 世界聖典刊行協会

本部 〒170

東京都豊島区上池袋二丁目三九番十七号
電話東京(九一五)一〇七八番
振替口座東京二一四六〇〇六番

昭和八年十二月五日 初版 発行
昭和二十九年十一月三十日 増訂版 発行
昭和四十九年五月一日 改定第一刷 発行



望月仏教大辞典 第五卷

編纂代表者	塚本善隆
著作権所有者	沢本貫
発行者	沢本富子
印刷者	伊東祐一

昭栄写真印刷株式会社

発行所 株式会社 世界聖典刊行協会

東京本部
〒170 東京都豊島区上池袋一丁目三九番十七号
電話東京(九一五)一〇七八番
振替口座東京四六〇〇六番
支店
〒602 京都市上京区油小路一条下ル
電話京都(四三二)〇九一六番
振替口座京都五〇六六番

序

佛教は其の起源の古き、其の傳播の廣き、實に世界の大思想であり、甚妙法である。従つてその經典は頗る多く、文獻も亦甚だ廣汎に亙つてゐる。現に漢譯及び國譯の大藏經を始め、梵語巴梨語西藏語等の聖典無數にして、又本邦支那朝鮮其の他歐米諸國の佛書は實に無限である。而してその教派教式も頗る多岐に涉り、能くその起源沿革を知り、所説を明にするは、眞に至難の事と謂はねばならぬ。こゝに於て佛教研究者は此等の聖典佛書を容易に解釋する適當なる辭典を編纂し、以て世人をして佛教は入り難く解し難しとの嘆を發せしめざる任務を有する。

從來佛教辭典の出版せられたるもの一二に止らぬ。しかし或は簡に失し、或は繁に流れ、重きを一宗派に置き、或は年代を經過して近時の研究を載録せざるの憾もある。

望月博士の本辭典は、著手以來既に二十數年、博士を始め、博士を助けし諸學者心血の結晶である。内容の廣汎にして充實せる、蓋し世界的大事業にして實に佛教界の一大貢獻なりと信ずる。今や佛教は泰西諸國に於ても頻に研究せられ、佛語譯の佛教辭典も編纂せられつゝありと聞く。本辭典は必ずやこれ等の外語譯佛教辭典の參考となり、その効果を全世界に及ぼすこ

とともにならう。

由來辭典の編纂は、獨創的研究を偏重するを得ず、又既知の事實を省略するを得ず、従つて學者の學術的功名心を満足させるには適せず、所謂割の悪い仕事である。されば功成り名遂げし學者にして、始めて克くこれに當り得べく、本辭典の望月博士に依つて編纂せられたることは、この意味に於ても好くその人を得たものと思ふ。こゝに本書の完成を慶賀すると共に、博士を始め諸學者多年の辛勞に深き敬意を表する。

本辭典の中途一時編纂を斷絶せられし際、聊か財的援助をなし、その再興を促したるはわが啓明會である。本會は之に因つて請はるゝ儘に所感を述べて序文に代へる。

昭和六年十月

財團法人啓明會理事長 侯爵 大久保利武

序

偉矣哉瞿曇氏自一說法于印度其教廣布東西諸國而緬甸暹羅安南西藏支那蒙古朝鮮日本尤尊信之堂塔伽藍遍於四方可謂盛矣然而佛典浩博雖有藏經之編未悉網羅之也蓋佛教者宗教而兼哲學而文學藝術多爲其所振興故苟欲究明東洋文化必不可不知佛教不則終不能得其肯綮也雖然佛教譬之猶深山大澤多藏珍禽奇獸佳木靈艸而不可容易採取之加旃術語甚多實爲難解是以初學之士率爾欲知佛教殆無由著手此所以佛教辭典之不可缺也往年兒島碩鳳編佛教字典是爲嚆矢尋若原敬經佛教伊呂波字典藤井宣正佛教辭林浩々洞佛教辭典露國羅冉伯爾俱佛教研究名辭集等出于世而皆未適于學者之用也如圓山達音陀羅尼字典富田敦純秘密辭林相澤惠海禪學要鑑山田孝道禪宗辭典無我山房禪學辭典田中智學本化聖典大辭林長谷寶秀密教大辭典等雖用意周密而惜其偏于一宗一派赤沼智善印度固有名詞辭典鷲尾順敬日本佛家人名辭書亦皆有益之書而不免局于一偏織田得能佛教大辭典龍谷大學佛教大辭彙粗得其體而尙未爲完備焉獨文學博士望月信亨君所著佛教大辭典則大異其撰焉君蚤涉獵佛典勇猛精進矻矻不止顯微闡幽蘊蓄涵養是以學殖深奧淵博今也屹爲祇林之龍象釋門之巨擘君二十年前已編佛教大辭典三冊爾來努力研鑽右搜左索百折不撓遂完成佛教大辭典五冊實爲其心血所凝結凡在此種辭典中該悉兼總無所偏局爲最具備焉

其嘉惠學者可以知也已予亦蚤憲大乘佛教之哲學涉獵古今之佛典久矣然其所知固不過九牛之一毛每有疑義必問之于君猶搜物于囊中快不可言也若得具君所著辭典于座右猶是君日夕在我側而答予也頃者君來屬曰佛教大辭典已成請序之對曰予平素敬服君之學識者豈得以不文辭之乎乃作此序此書一出于世其裨益學界之人也無疑矣然則是爲佛海之津梁法門之舟筏也學者由此以籀讀佛典討尋其義則大乘佛教之哲學雖深邃幽眇而何不可曉得而東洋文化之真相亦何不可究明之有倘遠溯其源得直與黃面老子心心相接安知其不透徹于人生之祕奧乎哉

昭和六年十一月五日

文學博士 井上哲次郎識

序

文學博士望月信亨氏は予が多年莫逆の友なり。氏が佛教大辭典の編纂を企てられしは、今より二十數年前の事に屬す。其の間幾多の艱難に遭遇し、具に辛酸を嘗められたるも、氏は屈せず撓まず、今や其の業を大成し、第一卷を公刊するに至りしことは、予の衷心より欣快に堪へざる所なり。

惟ふに佛陀降誕以來既に三千年に垂んとし、其の遺法は弘く東洋諸國に傳播して有らゆる文化の淵源となり、深遠なる哲學神學、崇高なる文學藝術を産出し、輒近に至りては歐米各國にも流傳し、今や世界の識者は漸く佛教の眞價を識認せんとするに至れり。蓋し佛教の聖典は頗る多數にして、其中には梵語巴黎語等を以て書せられたる原典あり、漢語暹羅語西藏語蒙古語及び邦語等に譯せられたる譯本あり。其の注釋及び論書紀傳等に至りては、更に異常の數に上り、實に汗牛充棟も啻ならざるなり。而して其等の諸典中に用ひられたる多種多様の術語は極めて皆難解にして、到底何人と雖も手引なくして之を讀破し、以て其理趣を翫味すること能はざる所なり。

佛教辭典が佛教を學ばんとするものゝ手引なることは改めて言ふを要せず、近時佛教研究

の勃興と共に之に關する辭典の刊行せられたるもの大小數種ありと雖も、或は一宗一派に偏し、或は粗にして精を悉さざるあり。然るに今回望月博士佛教大辭典は博く全佛教に互り、原典を涉獵し、譯語を精査し、力めて近代的研究の成果を採集し、又中央亞細亞等の各地より發見出土せる諸種の史料に就きても討究を加へ、全く遺憾なき程度に完成せられたり。是れ實に佛陀遺法の精華を縷刻せる一大ピラミットにして、其の業績は炳焉として永く教界に輝くべきものなることを信ずるなり。

氏は篤學の士にして名利に馳せず、齡既に耳順を過ぐるも尙意氣壯者を凌ぐものあり。庶幾くば速に全冊の刊行を了し、以て大に學界の耳目を聳動する所あらんことを。敢て一言を卷首に題し、以て予の欣快の情を舒ぶと云ふ。

昭和辛未歲十月下浣

文學博士 高 楠 順 次 郎